

## 農業農村整備事業等事後評価地区別結果書（案）

局名	沖縄総合事務局
----	---------

都道府県名	沖縄県	関係市町村名	やえ やまぐんたけとみちょう 八重山郡竹富町
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	おおほらだ 大保良田
事業主体名	沖縄県	事業完了年度	平成21年度

### 〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、沖縄県西表島（竹富町）の東部に位置し、原生林の沢部に広がる平坦な水田地帯である。受益農家のほとんどが専業農家であり、規模拡大を希望する担い手農家を中心に農業に対する意欲は非常に高い。

しかしながら、農地は排水不良箇所が多く不整形であり、かつ、かんがい排水施設も未整備であるため、機械化営農の推進が阻害されている。

このため、本事業により貯水池及びかんがい施設の整備を行うとともに、区画整理を実施することで水田の畑利用による高付加価値作物の導入や担い手への農地集積を促進させ、営農労力、生産コストの低減を図るなど農業経営の改善に資する。

受益面積：21ha

受益者数：13戸

主要工事：区画整理21ha、農道4.9km、排水路5.5km、用水路4.1km、貯水施設1式、暗渠排水21ha

総事業費：1,420百万円

工期：平成12年度～平成21年度（計画変更：平成15年度）

関連事業：なし

### 〔項目〕

#### 1 社会経済情勢の変化

##### (1) 社会情勢の変化

竹富町の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると9%増加しており、沖縄県全体の増加率6%を上回っている。

また、総世帯数は18%増加しており、沖縄県全体の増加率17%を若干上回っている。

### 【人口、世帯数】

区分	平成12年	平成22年	増減率	
			増	減
総人口	3,551人	3,859人	9%	
総世帯数	1,694戸	2,000戸	18%	
総人口（沖縄県）	1,318,220人	1,392,818人	6%	
総世帯数（沖縄県）	446,286戸	520,191戸	17%	

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の29%から平成22年の19%に減少しているものの、沖縄県全体の6%に比べて高い状況となっている。

### 【産業別就業人口】

区分	平成12年		平成22年		参考（平成22年）	
		割合		割合	沖縄県計	割合
第1次産業	584人	29%	407人	19%	28,713人	6%
第2次産業	212人	10%	150人	7%	81,142人	15%
第3次産業	1,240人	61%	1,574人	74%	418,321人	79%

（出典：国勢調査）

### （2）地域農業の動向

平成12年と平成22年を比較すると、耕地面積は4%、農家戸数は26%、農業就業人口は39

%減少しており、65歳以上の農業就業人口も48%減少している。  
一方、農家1戸当たりの経営面積は10%、認定農業者数は187%増加している。

区分	平成12年	平成22年	増減率
耕地面積	2,040ha	1,950ha	△4%
農家戸数	449戸	331戸	△26%
うち専業農家	209戸	186戸	△11%
農業就業人口	882人	537人	△39%
うち65歳以上	366人	190人	△48%
経営耕地面積	1,816ha	1,452ha	△20%
戸当たり経営耕地面積	4.0ha/戸	4.4ha/戸	10%
認定農業者数	38人	109人	187%

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は沖縄県農政経済課資料)

## 2 事業により整備された施設の管理状況

幹線排水路や農道（アスファルト舗装）は竹富町、末端水路や農道（砂利舗装）は大保良田水利組合や営農者により適切に管理されている。

また、貯水池やファームpondについては、大保良田水利組合によって年2回周辺草刈りが行われている。

## 3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

### (1) 農作物の生産状況の変化

水稻については、区画整理による大型機械の導入や農地集積により農作業の効率化と、かんがい施設の整備による農業用水の安定供給が図られたことに伴い2期作が可能となり作付面積が計画を上回っている。

かぼちゃについては、区画整理と併せて畠地かんがい及び暗渠排水の整備を実施したことにより、日持ちも良く価格の高い時期に出荷出来る優良品種の導入が可能となり、計画の2.5倍の作付けになっている。

飼料作物については、大型機械の導入が可能となったことや近年の仔牛価格の高騰に伴い現況に比べ約1.5倍の作付けになっている。

### 【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	19.4	5.0	11.1
水稻Ⅱ期	-	-	4.1
メロン	-	4.6	-
さとうきび	-	7.1	6.7
すいか	-	10.0	-
かぼちゃ	-	0.6	1.5
飼料作物	0.9	-	1.4
マンゴー	-	3.7	-

(出典：事業計画書(最終計画)、竹富町調べ)

### 【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	63	18	36
水稻Ⅱ期	-	-	4
メロン	-	89	-
さとうきび	-	636	275
すいか	-	264	-
かぼちゃ	-	8	13
飼料作物	103	-	163
マンゴー	-	72	-

(出典：事業計画書(最終計画)、農林水産統計年報、さとうきび及び甘しゃ糖生産実績)

## 【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	15.2	4.3	9.3
水稻Ⅱ期	-	-	1.0
メロン	-	49.2	-
さとうきび	-	13.0	6.1
すいか	-	46.6	-
かぼちゃ	-	1.2	6.3
飼料作物	1.2	-	3.2
マンゴー	-	154.4	-

(出典：事業計画書(最終計画)、H27竹富町調べ等)

## (2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化や幹支線農道等の整備に伴う大型機械の導入及び暗渠排水等の整備によるほ場の乾田化により、基幹作物である水稻の農作業に係る労働時間等の節減が図られている。

## 【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	1,030	277	137
さとうきび	-	71	101

(出典：事業計画書(最終計画)、農業生産法人調べ等)

## 【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	235	146	140

(出典：事業計画書(最終計画)、農業生産法人調べ等)

## 4 事業効果の発現状況

## (1) 事業の目的に関する事項

## ①農業生産性の向上

本事業の実施による農業用水の安定供給や暗渠排水の排水改良等によって水稻の2期作（ミルキーサマー）が可能になる等農業生産性の向上が図られている。

なお、水稻2期作限定で栽培されている「ミルキーサマー」は県の奨励品種であり、低アミロース米として食味が良くJAファーマーズで限定販売されている。

また、かぼちゃについては農林水産戦略品目の拠点産地に認定されており、JA西表島力ボチヤ生産部会では、県外産の端境期で市場単価が最も高い2月下旬から4月下旬を中心に高品質で食味の良い「こふき」を栽培・出荷しており、ブランド化に向けて生産の拡大が図られるなど、地域農業の振興に寄与している。

## 【単収】

(単位 : kg/10a)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)
	現況 (平成11年)	計画	
水稻Ⅰ期	327	353	325
水稻Ⅱ期	-	-	95
メロン	-	1,938	-
さとうきび	-	8,953	6,968
すいか	-	2,636	-
かぼちゃ	-	1,288	876
飼料作物	11,484	-	11,656
マンゴー	-	1,950	-

(出典:事業計画書(最終計画)、農林水産統計年報、さとうきび及び甘しあ糖生産実績)

## (2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

## ①農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

農業生産基盤の整備により、地区内の担い手（認定農業者）が育成され、事業実施前と比べ増加しているとともに、担い手への農地集積も進んでいる。

## 【担い手の育成状況】

(単位 : 人、組織)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)	増加数
	現況 (平成11年)	計画		
認定農業者	3	-	5	2

(出典 : 事業計画書 (最終計画)、竹富町調べ)

## 【担い手への農地集積】

(単位 : ha、%)

区分	事業計画（平成15年）		評価時点 (平成27年)	増加数
	現況 (平成11年)	計画		
農地集積面積	6.2	11.3	14.2	8.0
農地集積率	26.7	53.9	68.6	41.9

(出典 : 事業計画書 (最終計画)、竹富町調べ)

さらに、本事業の実施により水稻2期作が可能となり、事業実施前と比べ耕地利用率が20%向上（平成11年：100%→平成27年：120%）している。地区内に設立された農業生産法人が中心となり、担い手への農地集積、認定農業者や後継者の育成に取り組んでいる。

## (3) 事業による波及的効果等

本事業によって、農業生産基盤が整備され、機械化による農作業の省力化や安定的な用水供給が可能となったことにより、ブランド米である「ひとめぼれ」や「ミルキーサマー」の導入が進んでいる。

また、労働時間が節減されたため、地区内では減農薬・減化学肥料によるかぼちゃ栽培の取組が行われており、他地区との差別化を図っている。

さらに、整備された一部の農地では、周辺小学生が農業体験学習を継続的に行っており、農業の楽しさやすばらしさを実感することで、農業への理解を深める場となっている。

## (4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 2,808百万円

総費用 2,763百万円

総費用総便益比 1.01

(注) 総費用総便益比方式により算定。

## 5 事業実施による環境の変化

### (1) 自然環境

本地区は西表島の東部に位置する原生林の下流沢部に広がる水田地帯であり、竹富町の田園環境整備マスターplanにおいて環境配慮区域に位置づけられている。事前調査では貴重動植物の存在は確認できなかったものの、地区周辺の森林域や下流のマングローブ等豊かな自然環境へ極力影響の少ない整備として排水路の一部を石積みにする工夫や沈砂池設置により下流域への土砂の流出防止及び洪水流量の軽減を図り、下流域に自生する動植物に配慮した対策を行っている。なお、事業実施にあたっては行政・地域住民と一体となり「生き物引っ越し大作戦」と称した動植物の保全も実施されており、事業後も従前の自然環境が保全されている。

また、事業により整備された承水路周辺には「ふるさと農村活性化基金事業」によりサガリバナが植栽されているが、これらのサガリバナは大保良田水利組合によって管理され、地区内の景観の保全が図られている。

## 6 今後の課題等

本事業による農業生産基盤の整備により、農業生産性の向上や労働時間の節減が図られているが、更なる農業経営の安定に向けて、かぼちゃ等の高収益作物への転換の促進が必要である。また、本地域は台風が頻繁に来襲することから、今後高収益作物の導入に当たっては、ハウスの設置などの台風対策や、離島特有の流通不利性を解消するため、沖縄振興特別推進交付金事業である「農林水産物流通条件不利性解消事業」等によるソフト分野の継続的な取り組みが必要である。

なお、整備された施設は竹富町及び大保良田水利組合により適切に管理されているが、維持管理費の増加等課題があることから、今後は「多面的機能支払交付金」を活用し、地域住民が一体となった維持管理活動を行っていく必要がある。

事後評価結果	<p>本事業による水源整備、区画整理や暗渠排水等の整備により、機械化営農が可能なほ場となり、農作業の効率化や担い手への農地集積が図られている。また、水稻の作付けからかぼちゃといった高附加值作物への転換が見られる等地域農業の振興が図られている。</p> <p>その他、事業着工時から周辺小学校の総合学習で田んぼや農業の様々な役割を学習する場として活用されたり、承水路周辺のサガリバナが適切に管理されることで地区内の景観が維持・保全されている。</p> <p>今後も、収益性の高い作物の導入促進を図ることで、更なる地域農業の安定性向上が期待される。</p>
第三者の意見	<p>当地区は、区画整理や暗渠排水等の基盤整備が行われたことで、機械化が進み、水稻の労働時間が大幅に節減される等の生産の効率化や担い手への農地集積の効果が認められた。</p> <p>その他、水稻生産の効率化と併せ、水稻から高品質のかぼちゃへの転換及びブランド化に向けた取組も進んでおり、今後の地域農業の維持・発展が期待できる。</p> <p>また、小学校の総合学習の場としても活用される等地域住民との交流がみられるが、今後は、ほ場・施設の維持管理についても地域住民が一体となった取組が望まれる。</p>